

## (2) 東北



東北地域では、景気は急速に悪化している。

- ・ 鉱工業生産は極めて大幅に減少している。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化しつつある。

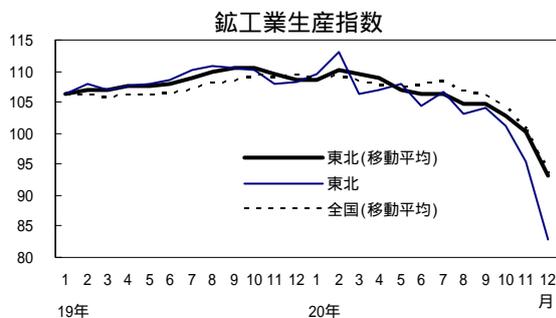
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成20年11月)	今回(平成21年2月)	
景況判断	やや悪化しつつある	急速に悪化	
鉱工業生産	減少	極めて大幅に減少	
個人消費	弱含み	弱い動き	
住宅建設	大幅に増加	減少	
雇用情勢	悪化しつつある	急速に悪化しつつある	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は極めて大幅に減少している。

電子部品・デバイスは、デジタルカメラ等向けモス型半導体集積回路やデジタル機器・自動車向けコネクタを中心に、大幅に減少している。食料品・たばこは、清酒や発泡酒類で低調だったものの、漁獲量が例年より高く、水産製品が好調だったことから、増加している。一般機械は、自動車や工作機械向け機械工具やベアリングなどの機械部品を中心に、大幅に減少している。情報通信機械は、カーナビやカーオーディオ及びノート型パソコンが低調に推移し、減少している。化学工業は、住宅用断熱材の原料であるウレタンフォームや医薬品は好調だったものの、自動車などの塗料に利用される無機薬品などが低調に推移し、減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	17.9	1.8	19.1	12.2	26.3
食料品・たばこ	11.8	0.8	2.0	0.1	10.7
一般機械	10.1	1.9	11.6	7.6	3.6
情報通信機械	9.6	15.3	2.7	1.0	9.0
化学工業	7.0	4.4	4.3	3.0	2.4
鉱工業	100.0	1.7	11.0	8.4	8.5

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

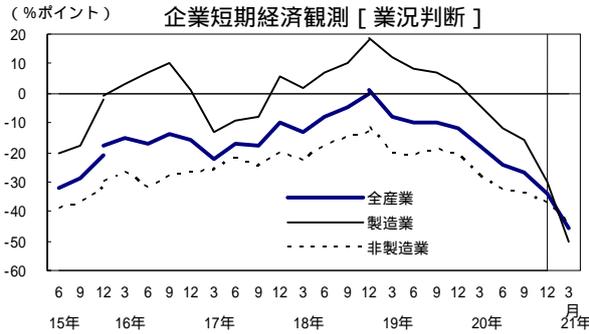
2. 全国及び東北の大線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

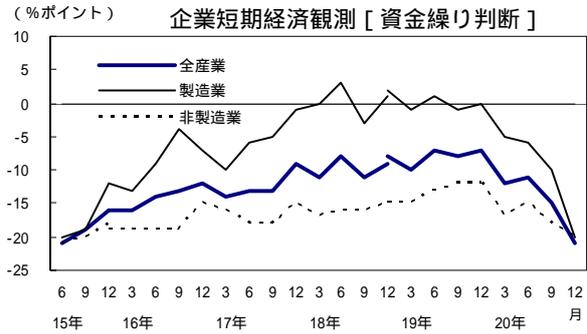
2. 10~12月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

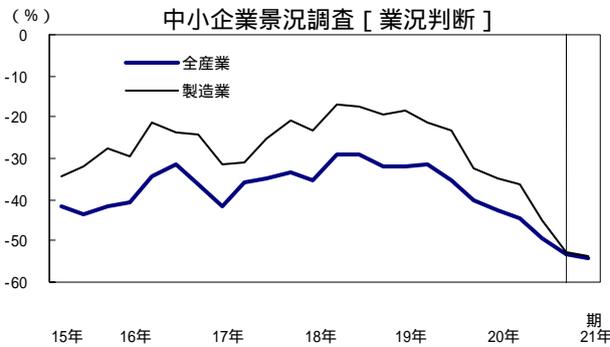
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年3月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

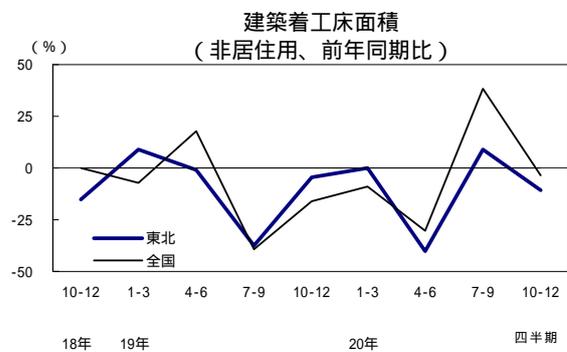
「前年の秋以降、商品価格の値上げを実施しているが、販売取扱店が減少し、売上が減少している(食料品製造業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	34.3	24.8( 4.5)
製造業	56.3	33.1( 8.0)
非製造業	9.9	4.0( 4.7)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は弱い動きとなっている。

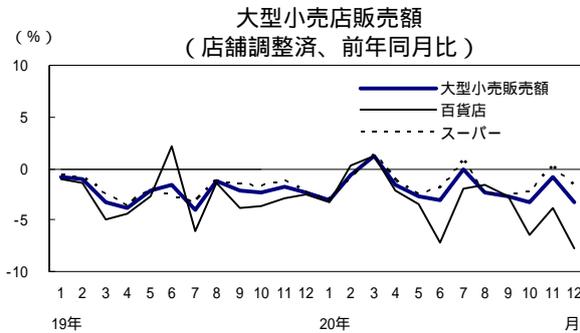
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、物産展の開催により菓子を中心に飲食料品は好調であったが、コート等の冬物衣料や海外ブランドの時計やバッグ等の高額な身の回り品が低調であったことから、前年を下回った。11月は、飲食料品は物産展や歳暮ギフトの早期受注により好調だったが、身の回り品や冬物衣料が低調であったことから、前年を下回った。12月は、飲食料品では物産展での生鮮食品・菓子及び地場産品を中心とした歳暮ギフト、衣料品ではブラウス、身の回り品ではハンドバック等に動きがみられたものの、全般に振るわず、前年を下回った。なお、東北百貨店協会によると、東北地区の1月の売上高は前年同月比で8.0%減となっている。

スーパーは、鍋物用の野菜や調味料、おせち材料などの飲食料品は堅調だったが、消費マインドの低下から衣料品、身の回り品が振るわず、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

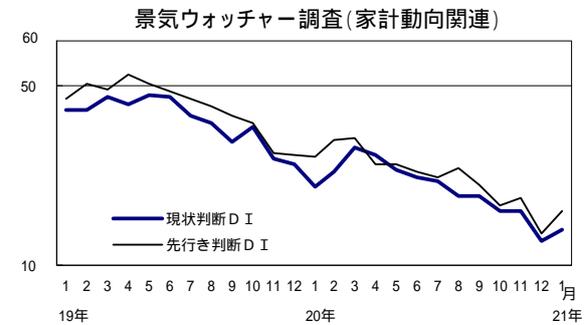
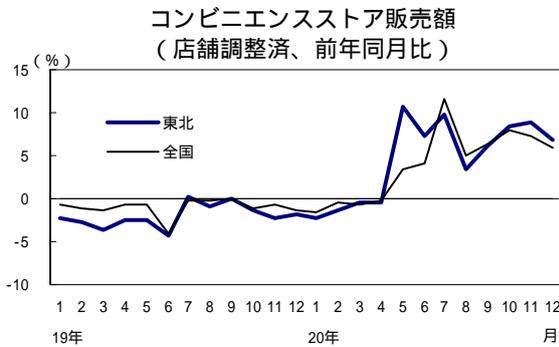
「初売りの売上は、天候に恵まれたにもかかわらず、これまで経験がないほど悪く、前年に比べ30%の減少となっている。周辺の商店街も同様に人通りが少なくなっている(衣料品専門店)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	0.9	2.5	1.7	2.5
百貨店	0.7	4.3	2.1	6.2
スーパー	1.0	1.9	1.6	1.3
コンビニ	1.3	5.8	6.3	8.1
景気ウォッチャー	31.4	31.7	26.6	19.9

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

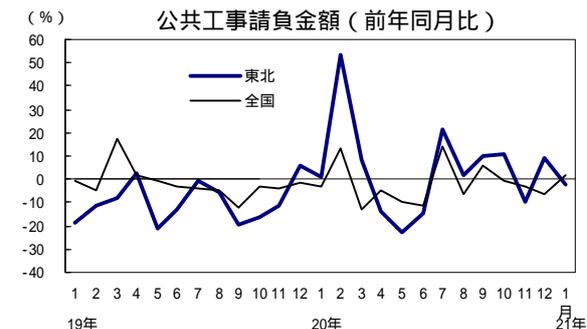
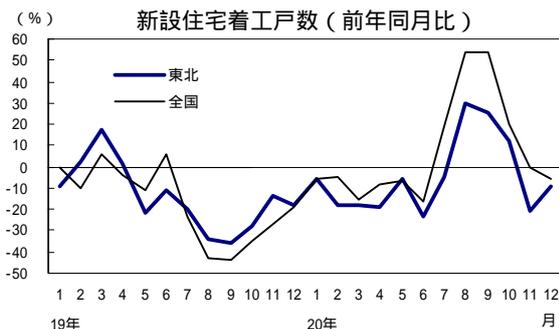
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

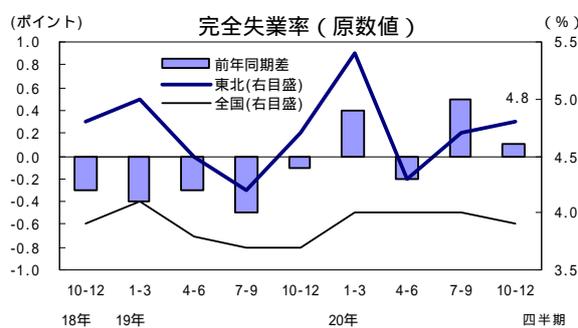
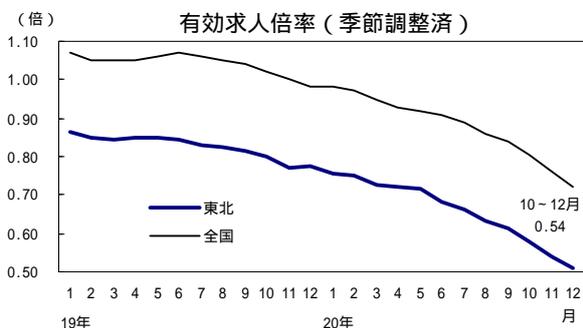


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



景気ウォッチャー調査(1月)[雇用関連(現状)]

「製造派遣に限らず、事務派遣においても雇用情勢は悪化している。企業では、欠員が発生しても後任を採用せず、現社員で役割分担を行っている(人材派遣会社)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、負債総額は減少しているものの、件数が増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	21年1月
倒産件数	264	291	288	261	83
(前年比)	13.3	16.4	32.1	7.9	10.7
負債総額	951	982	1,089	729	337
(前年比)	4.8	30.4	78.4	10.0	26.7



景気ウォッチャー調査(1月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・販売業者を通さずに、米を直接農家から購入する客が若干増加している(農林水産業)

<先行き>

・年度末にかけて予算消化のための工事が各地で行われるため、受注量は前年度並みとなる(土石製品製造販売)

